

2014 年 5 月 23 日

2014 年度第 2 回スポじんサロン発表要録

「観光名物『阿波踊り』と民俗文化財『津田の盆（ぼに）踊り』」

小林敦子（明治大学「身体コミュニケーション研究所」研究推進員）

「阿波踊り」と「津田の盆（ぼに）踊り」はいずれも徳島市に伝わる盆踊りであり、「ぞめき」という弾むリズムを共有し、藩政期より同じ「阿波の阿呆踊り」として知られていた。しかし両者は大正末期頃から道を異にするようになる。市中（城下町）の盆踊りは「阿波踊り」として観光化され、唄が衰退し、踊りとお囃子の様式美が追求され発展し続けている。これに対し、市沿岸部の漁師町であった津田地区の盆踊りは、市中に近いにも関わらず観光化の影響を受けなかった。そして「阿波踊り」の隆盛の影響を受け衰退して 20 年後、民俗芸能掘り起こしの潮流において唄をよりどころとして保存会が結成され、徳島県指定無形民俗文化財として復活している。そこには伝統の創出性や見せるパフォーマンス化も認められる。「阿波踊り」は年間 120 万の集客数を誇る一方、地域との乖離等の課題をかかえ、「津田の盆踊り」も次世代への伝承が困難となっている。歴史的経緯および芸能において対比的様相を示しながら、いずれも民俗舞踊の現代的課題を内包するものとして、両者を考察する。